

クウェート留学報告 中村もも

2016-2017 年度の奨学生としてクウェート大学に留学させて頂いた中村ももです。ここでは一年の留学生生活を終えて特に印象に残った2点についてお伝えします。

1. アラビア語の標準語と方言
2. クウェートの「適当」さ

1. アラビア語の標準語と方言

まずは留学本来の目的であるアラビア語の学習についてですが、最初に注意しておきたいのが、アラビア語の「会話」を特に練習したい場合には、クウェートはあまりおすすめできないということです。基本的に外国人がアラビア語を学習する場合には標準語（フスハー）を勉強しますが、いざアラビア語圏へ行ってみると、日常的に使われているのは方言（アーンミーヤ）です。私自身、そういった話は聞いていたのですが、「標準語」と「方言」という表現から、日本と同じような使い方をしているのだろうと考えていました。しかし、アラビア語の「標準語」と「方言」の関係は日本語のものとは大きく異なります。

クウェート現地へ行くと、町で日常的に聞くことになるのは湾岸方言と英語です（そのため、湾岸方言を学びたい方には無論おすすめできます）。それでは、どこで標準語が使われているのかというと、新聞や本などの書き言葉として、またはテレビなど公共の場での話し言葉として使われています。その一方で、クウェートには外国人労働者が多数存在し（全人口の約7割を占める）、大抵の場所でアラビア語と同様に英語が使われています。そのため、アラビア語を使わなければ生活に支障をきたすような場所に留学する場合と比べると、言語の習得によい環境とはいえないでしょう。

このように難点もあるものの、基本的にこちらが話すような簡単な標準語は難なく理解してもらえますし、自分さえ強い意志を持ってアラビア語を使い続ければ、確実に会話力も伸びると思います。もちろんクウェート大学での授業はすべて標準語で行われ、先生や周りの学生とも標準語を使ってコミュニケーションを取るようになります。留学生としてクウェートにいと、日本語を勉強しているクウェート人の学生や社会人と出会う機

会も多く、お互いの母語を勉強しているという関係は学習の励みになりますし、とても刺激的でした。

2. クウェートの「適当」さ

「イスラームを見たければ、日本を見なさい。」

湾岸ではこんなフレーズがあると、クウェート人から何度か聞く機会がありました。イスラームが大切にしている価値観を日本社会が良く体現しているのだと褒められたのですが、日本とイスラームを繋げて考えたことがなかったため嬉しいながらも意外に思ったことをよく覚えています。

日本にいとそれほど実感のわからないことですが、海外に出た人が決まって言うことに、日本人は勤勉、真面目、といったことがあると思います。日本で生活していても身の回りの人たちが一様に「日本的」なわけではなく、さらに一昔前と比べるとそうした面は失われつつあるのではと思っていたこともあり、実際には日本人にそうした特性があったとしても、それほど大きな差を生むものではないだろうと思っていました。しかし、いざクウェートに行ってみると、予想を裏切られることになりました。仕事に対する責任感や時間を守る感覚、計画性などの部分に関して、特に様々な手続きの場面で違いを感じる機会が多く、適応することが難しいと同時に、理解不能なことに対するいらだちをなんとか宥めつつなぜこれほど違うのかと疑問を抱きました。

様々な原因が考えられますが、たしかなのは、こうした違いを一概に善悪で判断することはできないということです。一般的に、仕事が早いことや期日通りに終わることはどこに行っても評価されるのだと思いますが、それを実現するために何をどこまで犠牲にするのかという部分に違いが出るように思うからです。日本でよく問題になる過労やこころの病気などは、日本社会で当然とされるような水準がある種窮屈な行動様式を作っていることが原因のひとつだと思います。クウェートでの生活を通して、便利さやあるべき姿を実現するために規律正しくあることと、良い意味で適当であったり柔軟であったりすることのバランスが重要であると改めて考えさせられました。

最後に

一年間、まったく異なる文化圏で勉強するという体験は大変貴重なもので、語学以外にも多くの学びがありました。留学中に積み重ねた重要な気づきの数々はあまりに多く、また感覚的なものも多いので、ここですべてお伝えすることはできませんが、クウェートへ行く予定のある方や興味をお持ちの方に少しでも参考になりますと幸いです。